

観光に地域資源生かそう

1月下旬、同僚を伴い厳冬期の「最上川舟下り」雪見舟を楽しんできました。グリーンシーズンは何度か体験していますが冬は初めてです。明治維新の魁(さきがけ)と言われた清河八郎も25歳のとき、母の亀代を伴い、伊勢参りなど約3カ月の旅の終わりに本合海から生家の清

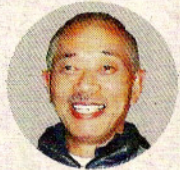
提言

川まで舟で帰っています。

2006年から4年間、ふるさと山形を勝手連的に元気にしようとして「最上川・街道・三賢者(義経、芭蕉、イザベラ・バード)」をキーワードに3賢者の県内ルート約600キロを山形新聞社の同行取材を得ながら踏査・検証し、09年から10年にかけて

NPO法人「元気・まちネット」代表

矢口 正武



広域連携の必要性実感

八郎は生家のある清川から山伏峠、羽黒山麓、松根、田麦俣を通り、六十里越街道を越え、弓張平、本道寺、寒河江、山形、上山から榎下宿通って江戸へ

ました。1800キロの道のりをとで、山形の歴史・文化をほじ

ては清河八郎が江戸へ出奔したルートを「回天の道」と名付け、約1800キロを踏査・検証しました。

出ました。1800キロの道のりをとで、山形の歴史・文化をほじ

は http://www.genki-net.com/ 同(思)を